

有明海再生赤潮モニタリング委託事業

夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリング

岩永卓也・山田秀樹・中原 啓太・野口 浩介

有明海における貧酸素水塊の消長シナリオの構築及び貧酸素水塊の発生予察手法の検討に資するために、夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリングを行った。なお、本課題の詳細については、令和6年度豊かな漁場環境推進事業「赤潮等による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化報告書」で報告した。

方法

図1に示すSt.T2, T13, P6, P1およびB3の計5定点において、2024年7月9日から9月5日にかけて計8回の調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度とした。

結果

各定点における *Chattonella* 属、珪藻類および渦鞭毛藻類の細胞密度の推移をそれぞれ図2、図3および図4に示した。

Chattonella 属は、7月9日のSt.P6とSt.B3で初認され、細胞密度はそれぞれ60 cells/mLと20 cells/mLであった。7月15日から8月4日の期間で、*Chattonella* 属の細胞密度は0 cells/mLで推移、8月19日でSt.B3を除くすべての地点で2~32cells/mLと低密度で確認された。その後の8月27日にはSt.T13で*Chattonella* 属ブルームが形成され、最高細胞密度は、956 cells/mLとなった(図2)。

珪藻類の細胞密度は、7月9日のSt.B3、7月21日のSt.P1、7月29と8月4日のSt.T2で3,926~12,240 cells/mLと高密度であった(図3)。

渦鞭毛藻類の細胞密度は、全調査期間を通して、全地点で0~116 cells/mLと比較的高密度であった(図4)。

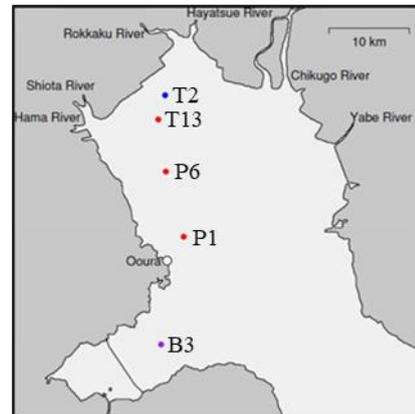


図1 観測地点

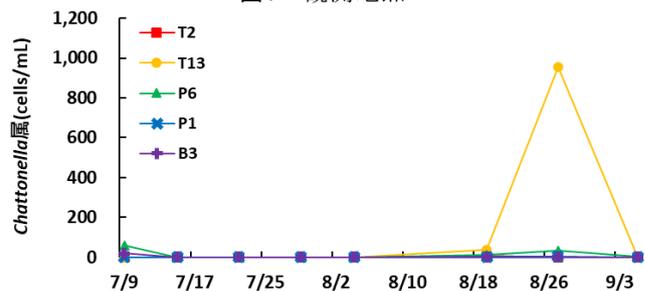


図2 各定点における *Chattonella* 属の細胞密度の推移

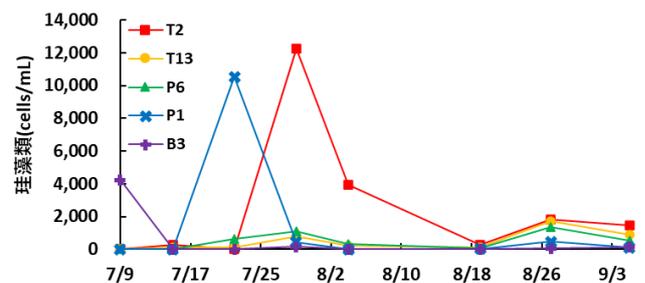


図3 各定点における珪藻類の細胞密度の推移

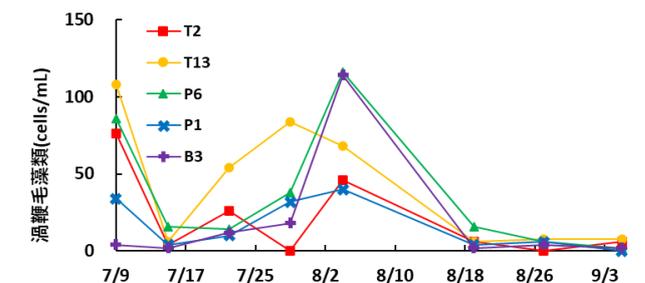


図4 各定点における渦鞭毛藻類の細胞密度の推移